

埋蔵文化財 愛知

—No. 29—



清洲城下町遺跡全景

清洲城下町遺跡は清洲城とその城下町を中心とした遺跡で、東西約1.5km、南北約2.5kmの規模である。写真は南から遺跡を見たところで、奥の森が清須城の推定本丸跡である。すぐ脇をJR東海道新幹線、東海道線が走り、その向こうには東名阪自動車道の高架が見える。左手の川が五条川で、正面の調査区は五条川改修関連調査の91A区である。ここは中堀の虎口の正面にあたり、巨大な屋敷地が検出され、陶製狛犬など多様な遺物が出土した。



平成4年度事業計画

(財)愛知県埋蔵文化財センター

●埋蔵文化財発掘調査及び報告書等の刊行

- 国道302号拡幅関連 1,510㎡
 - 1. 貴生町遺跡 (名古屋市)
 - 2. 月縄手遺跡 (名古屋市)
- 国道23号バイパス関連 13,000㎡
 - 3. 牛ノ松遺跡 (幸田町)
- 東海北陸自動車道関連 10,450㎡
 - 4. 西上免遺跡 (尾西市・一宮市)
 - 5. 田所遺跡他 (一宮市ほか)
- 東三河総合庁舎建設関連 2,600㎡
 - 6. 吉田城遺跡 (豊橋市)
- 県道新川清洲線関連 1,010㎡
 - 7. 清洲城下町遺跡 (清洲町)
- 県道豊田知立バイパス関連 2,100㎡
 - 8. K-40・89号竊跡 (三好町)
- 県道加納東保見線関連 500㎡
 - 9. 伊保遺跡 (豊田市)
- 橋梁改築関連 2,000㎡
 - 10. 島田陣屋跡 (新城市)
- 県道新川甚目寺線関連 680㎡
 - 11. 外町遺跡 (新川町)
- 五条川改修関連 660㎡
 - 12. 清洲城下町遺跡 (清洲町)
- 下水道浄化センター建設関連 300㎡
 - 13. 一色青梅遺跡他 (稲沢市・平和町)
- 内陸工業用地造成関連 1,300㎡
 - 14. 子持古窯跡群 (三好町)
- 知多中央道拡幅関連 600㎡
 - 15. 立楠古窯跡 (常滑市)
- 報告書及び年報の刊行
 - 朝日遺跡 (名古屋環状2号線関連)
 - 岡島遺跡 (国道23号バイパス関連)
 - 不馬入遺跡 (国道23号バイパス関連)
 - 東光寺遺跡 (県道蒲郡碧南線関連)
 - 坂口遺跡 (県道島崎豊田線関連)
 - 根川遺跡 (県道加納東保見線関連)
 - 伊保遺跡 (県道加納東保見線関連)
 - 高樋遺跡 (県道坂上花沢線関連)
 - 三斗目遺跡 (仁王川改修関連)

- 三本松遺跡 (仁王川改修関連)
- 山中遺跡 (尾張看護専門学校増築関連)
- 名古屋城三の丸遺跡 (県警総合科学センター建設関連)
- 年報一平成4年度一

●発掘技術等研修会の開催

- 基礎研修会 2日間 募集人数 30名
平成4年 8月27・28日
- 専門研修会 2日間 募集人数 25名
平成4年 11月26・27日

●広報紙・誌の発行

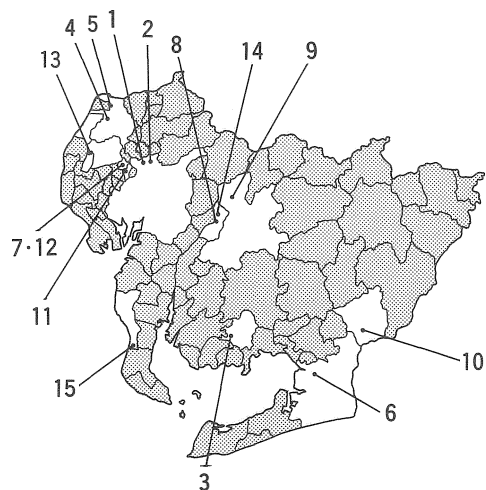
- 『愛知県埋蔵文化財情報8』の発行 年1回
- 『埋蔵文化財愛知No.29～32』の発行 年4回

●埋蔵文化財展の開催

- 会場 西春日井郡清洲町
清洲町民センター 集会室
- 期間 7月25日(土)～8月9日(日)
- テーマ 「埋もれた城とまち」

●埋蔵文化財講演会の開催

- 会場 清洲町民センター ホール
- 日時 8月9日(日)午後1時30分より
- 講師 網野善彦先生
(神奈川大学短期大学部教授)
- 演題 「日本社会再考」



遺跡の位置

愛知県教育委員会実施の調査事業

愛知県教育委員会文化財課

県教育委員会は、遺跡の周知徹底をはかり、様々な開発事業との調整・協議のための基礎的資料の作成を、市町村教育委員会の協力をえてすすめているが、本年度も次に掲げる調査事業を実施していく。

(1) 中世城館跡調査

文化財課では、昭和54年度に市町村教育委員会の協力のもとに県下の城郭遺跡の現況概要を調査し、823ヵ所の城館跡を確認している。しかし、近年の山林の著しい荒廃や各種開発事業の進行に伴って、城館跡の現状が変容し、さらには滅失するおそれが増大しつつある。このため、城館跡の現況等を正確に把握し、その保存に努めるとともに、開発事業との調整・協議に備えるため分布調査を実施するものである。また、県下の城館跡の多様な形態は、中世から近世初期にかけての尾張・三河の政治的あるいは軍事的情勢を反映しているものと考えられ、この視点での研究資料の蓄積をも目的としている。

調査方法は、関係市町村教育委員会の協力のもとに現地調査を実施し、城館跡の現況確認・縄張図の作成を行う。同時に、関連する文献・地誌・絵図・地籍図を検索し、必要に応じてそれらの撮影、複写を行い、調査カードを作成する。

本年度の調査は、昨年度に引き続いて西三河地区を対象に実施する(報告書は次年度作成)。

(2) 万博候補地内遺跡詳細分布調査

西暦2005年度に開催が計画されている万国博覧会の会場候補地として瀬戸市東部丘陵が内定しているが、文化財課では遺跡の保存と万博計画との調整を図り、また発掘調査を要する遺跡に関する調査計画を作成するために、本年度・次年度(2ヵ年)に候補地一帯の遺跡分布調査を実施する。この調査では、現地踏査、必要に応じた試掘調査、採集遺物整理を行い、遺跡の現況を詳細に把握する。

(3) 重要遺跡指定促進調査

県内に所在する重要な遺跡については、将来にわたって保護するために文化財保護法や地方公共団体の文化財保護条例等による指定が必要となってくる。そのためにも、遺跡の範囲や内容を明らかにして、遺跡の歴史的位置づけを行うことが求められている。

本年度は、三河地区の古墳を調査対象とし、現況測量等を実施して、遺跡の範囲や重要度を把握するための基礎資料を整える。

(4) 第5回埋蔵文化財調査研究会の開催

県内の埋蔵文化財担当専門職員が発掘調査の成果の発表をとおして、情報交換と研鑽に努めることを目的に開催。

内容については平成3年度に実施された83件の発掘調査のうち、北貝戸遺跡〔足助町〕・磯部王塚古墳〔豊橋市〕・赤塚山瓦窯跡〔豊川市〕・ハッ面山北部遺跡〔西尾市〕・室遺跡〔埋文センター〕・法円寺中世墓〔一宮市〕・K-G-69号窯跡〔三好町〕・清洲城下町遺跡〔埋文センター〕の調査成果の発表と、科学分析の成果と問題点についての事例発表。

開催日 平成4年7月3日(金)

会 場 愛知県埋蔵文化財調査センター



丘陵端部に築かれた東条城跡(吉良町)

シリーズ「古代を掘る」1

堀之内花ノ木遺跡から尾張国分寺を考える

はじめに

天平13年(741)3月、国分寺建立の詔が出された。あいつぐ戦争、反乱、天変地異、凶作、天然痘の大流行は発足して間もない律令国家にとって脅威であった。聖武天皇の苦悩は想像に難くない。彼は平城京を捨て、伊賀、伊勢、美濃、近江と奇怪な御幸を続けた。そしてようやく山背恭仁宮に落ち着き、先述の詔を発したが、その後も近江紫香楽、難波と宮を移す。天平17年に平城京に還都するまでの5年間はまさに政治の空白の時期であった。

当然のことながらそのような時期に諸国で国分寺の建立が進むはずはない。天平19年には、未だ建立の進まない諸国の国司に対してその怠慢を指摘し、郡司層の協力も求めて3年以内に必ず建立せよ、と督促している。また協力した郡司層には末代までその身分を保証している。

このように律令国家の大事業、国分寺建立は決してスムーズなものではなかったのである。

文献にあらわれた尾張国分寺

さて尾張国分寺はいつどこに建立されたのだろうか。『続日本紀』によれば、天平勝寶元年(749)5月に山田郡の外従七位下生江臣安久多が知識物を、神護景雲元年(767)5月に海部郡の主政外正八位下刑部岡足が米一千斛をそれぞれ尾張国分寺に献じて、ともに外従五位下を授けられている。生江臣安久多が郡司であったか否かは定かでないが、五位を授けられた者は墾田永世私有法によって100町もの開墾地を私有できるのだから、献上の見返りは十分にあったであろう。いずれにせよ尾張国分寺がこの頃までに成立していたことは確かである。

その後の文献に見られるのは、神護景雲3年(769)8月の海部郡・中嶋郡の洪水記事と同年9月に美濃国との境を流れる鵜沼川(木曽川)が氾濫し葉栗・中嶋・海部の3郡が被害を受け、下流にある国府や国分二寺も危険であるとの奏上記

事、寶龜6年(775)8月伊勢・尾張・美濃3国に異常風雨があり300人以上の民と1000頭以上の牛馬が漂没し国分寺をはじめ諸寺院の堂塔19が壊れた記事、『続日本後紀』にみられる承和4年(837)3月と齊衡元年(854)2月の尾張国の河川氾濫記事があるが、いずれも尾張国分寺に直接被害があったか否かは明記されていない。

尾張国分寺の廃絶については『日本紀略』の元慶8年(884)の条に、国分寺焼失のため愛智郡定額願興寺にその機能を移すという勅令記事がある。願興寺は名古屋市中区の元興寺跡に相当すると思われる。中世の文書には「国分」という地名や領名が三宅郷や中嶋郡山口保にみられ熱田神領(中嶋郡鈴置郷か)の北に国分郷があるとの記述もある。尾張国分寺の所在地を「矢合」と記したものに江戸時代に作られた『塩尻』『張州府志』『尾張名所図絵』『尾張志』等があるが、その比定の理由は不明である。その後明治19年に矢合の円興寺が寺名を国分寺と改名することを許され、大正4年に同寺の所有地であった矢合椎ノ木の古瓦散布地に尾張国分寺旧址の標柱が立てられた。

以上のように、尾張国分寺関連の文献史料からは建立と廃絶の時期は確認できるが、所在地については確証に乏しい状態であった。

堀之内花ノ木遺跡と寺域

尾張国分寺に考古学のメスが入れられたのは昭和36年であった。当時奈良国立博物館長であった石田茂作氏を団長とする調査団が稲沢市矢合椎ノ木の国分寺推定地を発掘調査し、軒瓦をはじめとする多くの出土遺物を得るとともに、塔の礎石と金堂とみられる建物基壇の一部を確認した。その後昭和58年に、寺域南限と推定されていた農業用水路の改修に際して稲沢市教育委員会が発掘調査を実施したが、後世の攪乱がはげしく国分寺関連遺構は検出されなかった。

そして今回県道名古屋祖父江線の建設にとも

ない平成3年5月から平成4年1月にかけて(財)愛知県埋蔵文化財センターが国分寺の南に隣接する堀之内花ノ木遺跡の発掘調査をおこなった。7100㎡に及ぶ調査の結果、調査区Cにおいて上層が後世に削平されてはいるものの尾張国分寺が機能していた時期の遺物を出土する東西、南北の溝を確認したのである。

東西の溝(以下SD30)は、幅1.5～2.0m、深さ0.4～0.47mを測り、須恵器、灰釉陶器が出土した。南北の溝(以下SD13)は幅2.2～2.3m、深さ0.7～0.8mを測り、須恵器を中心に瓦や風字硯などの遺物が出土した。これらの遺物は猿投窯編年における折戸10号窯式を中心とする時期に所属すると思われ、創建瓦とされる軒丸瓦、軒平瓦も出土している。この2条の溝は、その交わる部分に中世の溝が重複してはいたが、ほぼ直交するものと考えられ、昭和36年に調査された塔や金堂の中軸線の方角とも概ね一致する。またSD30は調査区Cの東端で同時期の南北の溝(以下SD15)と直交している。さらにSD15が廃絶した後に掘削された井戸(以下SE03)からはほぼ正方形(0.81m×0.82m)の横板組木枠と曲物(径0.5m)1段が確認され、木枠の裏込めとして国分寺使用瓦が集積されていた。SE03出土の遺物は大半が灰釉陶器であり、器形から猿投窯編年における黒笹90号窯式の時期に所属するものと考えられる。

以上のような遺構・遺物の状況から、SD13、SD30は尾張国分寺の寺域を区画する溝と考えられ、SD15とSD30が交わるあたりに「門」の存在を想定できる(この地点の字名は「大門」である)。このように捉えると、寺域規模は東西約166mとなり、従来考えられてた寺域よりも

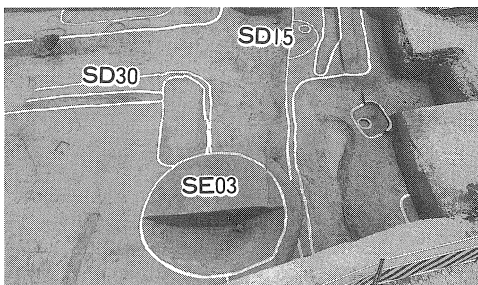
東西幅がやや短く、南北幅が大きく拡大することになる。またSE03は尾張国分寺廃絶後に掘削された井戸であり、『日本紀略』にみられる884年の焼失記事と整合する可能性が高いことも判明した。

まとめ

これまでの研究成果と昨年度の調査結果から古代上国尾張国の国分寺の姿の一端が明らかになりつつある。出土遺物、遺構等の子細な検討は今後の課題となるが、注目すべき視点のひとつに文献史料と考古学的成果との比較検討がある。先程述べた『日本紀略』と調査結果の整合以外に、国分寺出土瓦と文献史料との整合例を紹介しよう。梶山勝氏は「尾張国分寺とその同型瓦の分布をめぐって」(『名古屋市博物館研究紀要』第14巻 1991)のなかで尾張8郡のうち中島・山田・海部・愛智・智多の5郡に国分寺と同型瓦をもつ寺院が存在することなどから国分寺造営に5郡の豪族層が関わっていた可能性を指摘している。また山田郡の大永寺、海部郡の淵高廃寺については軒丸瓦、軒平瓦とも同型瓦を使用していることから国分寺の影響を強くうけているとも述べている。このことを『続日本紀』と重ね合せると山田郡生江臣安久多・海部郡刑部岡足の国分寺への献上は、授位による利益もさることながら、その見返りとしての氏寺造営が目的であったと考えることが可能になる。

このように文献史料と考古学的成果との比較検討によって古代尾張国の姿やそこに生きた人々の実体が一層鮮明になってくる。堀之内花ノ木遺跡はこの視点を確かめる重要な遺跡である。

(調査研究員 蟹江吉弘)



推定南門付近(C区東端)



SD13遺物出土状況

遺物紹介

清洲城下町遺跡出土の陶製狛犬 西春日井郡清洲町

濃尾平野を南流する五条川の両岸に、戦国時代の代表的な都市「清須城下町」が存在する。これまでの発掘調査で、武家屋敷の発見・町屋の確認といった成果が次々と挙げられ、「清須城下町」の様子が徐々に解明されつつある。この清洲城下町遺跡の平成3年度の発掘調査は、5調査区で実施し、この概要は前号(No.28)の遺跡紹介で示した。ここでは、91A区から出土した戦国時代の陶製の狛犬について述べて、当時の人々の祈願のあり方について考えてみたい。

狛犬は城下町期前期末(16世紀後半)のゴミ穴(SK303)から出土した。調査地点(91A区)の城下町期前期末の様子は、礎石建物の住居が建ち並ぶ一辺が100mを超える広大な屋敷地の一角であったと考えられ、SK303はこの屋敷の南部の空き地に掘られた巨大なゴミ穴である。このゴミ穴は天正地震(1586年発生)以前に埋められており、ある程度、年代が特定できる。なお、SK303の北約10mの地点には、同時期の3間×5間の礎石建物(SB103)が存在している点が注目されよう。

出土した狛犬は前足・後足・尾・台部が損失している。筒状の胴体に頭部がつけられ、長さは約24cmを測る。体部を斜め前方に突き出し、光沢のある茶色の釉薬が施されている。目が大きく瞳は丸く穿たれており、口は半開きで「阿形」と思われる。体部に銘文などが見られないことから、年代や目的・願主などは詳らかではない。似たような表情の狛犬は、西尾市久麻久神社に残っており、室町時代後半に比定されている⁽¹⁾。

石製の狛犬は通常神社の建物の前面に配置され、露天で置かれるものである。これに対し、陶製の狛犬は願主が何らかの祈願や御礼を込めて神社・祠に奉納したもので、建物内に置かれる場合が多い。おそらく、願主は奉納に当たり、瀬戸・美濃の陶工に狛犬製作を依頼して作らせたものであろう。とすれば、今回出土した狛犬に願主は何を祈願しどこに奉納したものである

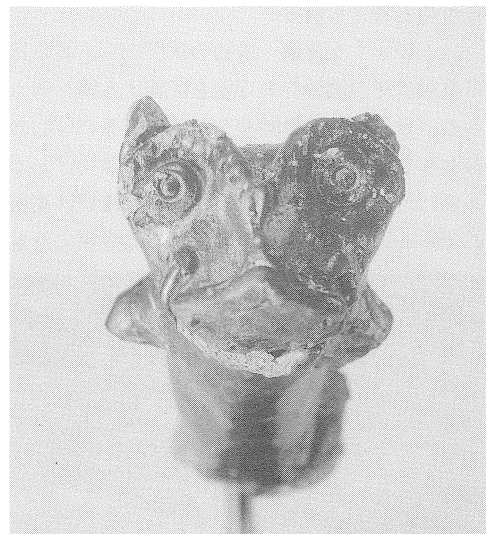
うか。この手がかりとなるものが、SK303付近に所在する礎石建物SB103である。SB103は床を高くする構造を持つ建物で、普通に居住した家屋ではなく、蔵・神社仏閣などの性格が考えられる。①狛犬が出土したこと、②建物規模が小さいことから、SB103は「祠」であったと想定され、狛犬はこの祠に奉納されたものと考えられよう。

礎石建物の住居が建ち並ぶ広大な屋敷の一角に祠があり、何らかの思いを込めて狛犬を奉納した例はこれまでの発掘調査では見られない。清須城周辺では、土田八幡社の宝物の中に「天正十六年戊子七月吉日」の刻銘のある石製の狛犬が見られ、戦国時代末期に狛犬を奉納した事例がある。また、御園神明社を初めとする清洲三社などに病氣平癒などを祈願した記録が多く残っており⁽²⁾、神社に対して現世利益の思いを込めていた風潮が読み取れる。こういった背景を考えると、屋敷の一角に祠を持って独自に祈願を行うことはそれほど奇異なことではないだろう。

今回の事例は、祈願の内容まで明らかにできなかったが、信仰の一面を伺う資料となったことは確かであろう。(調査研究員 鈴木正貴)

(1) 本多静雄『陶磁のこま犬』1976

(2) 清洲町史編さん委員会『清洲町史』1969



狛犬正面

愛知県埋蔵文化財担当専門職員名簿（平成4年6月1日現在）

県市町村名	所 属	電 話	
		職 名	氏 名
愛知県	教育委員会文化財課	〈052〉961-2111 専門員 赤羽一郎 教育主事 梅本志広 〃 長嶋和義 〃 磯谷明弘 〃 磯安藤	郎志広明弘
	埋蔵文化財調査センター	〈0567〉67-4164 所長 伊藤稔文 主査 中川真	稔文
名古屋	陶磁資料館	〈0561〉84-7474 学芸課長 柴垣勇夫 主任学芸員 浅田由 〃 井上喜 〃 仲野泰 学芸員 野末浩	夫由喜泰裕之
名古屋	教育委員会 学芸課	〈052〉972-3268 学芸員 小山田一夫 〃 山田一夫	一夫
瀬戸市	教育委員会 文化財課	〈0561〉82-0687 主事 加藤大蔵 〃 服部文孝	大蔵文孝
春日井市	教育委員会民俗考古調査室	〈0568〉33-1111 専門員 大下武 嘱託 梅田純代 〃 永井宏幸 〃 村松一智 〃 桐山義	武代幸秀義
小牧市	教育委員会 社会教育課	〈0568〉72-2101 係長 中嶋隆 主事 坪井裕司	隆司
稲沢市	教育委員会 社会教育課	〈0587〉32-1111 主査 北條献示 主事 日野幸治	献示幸治
津島市	教育委員会 社会教育課	〈0567〉24-1111 主事 萬谷さつき	さつき
東海市	教育委員会 社会教育課	〈052〉603-2211 係長 立松彰	彰
岡崎市	教育委員会 社会教育課	〈0564〉23-6439 主査 荒井信貴 嘱託 川崎みどり 〃 伊藤久美子	信貴みどり久美子
西尾市	教育委員会 社会教育課	〈0563〉56-7722 主査 松井直樹 嘱託 鈴木とよ江	直樹とよ江
知立市	教育委員会文化課	〈0566〉83-1133 主事 岡本茂史	茂史
豊田市	教育委員会文化財保護課	〈0565〉32-6561 課長 田端勉 主査 松井孝 〃 伊藤達 〃 森浦通 主事 杉浦裕幸 〃 児玉文彦	勉孝達通幸文彦
新城市	教育委員会生涯学習課	〈05362〉3-1111 書記 鈴木隆司	隆司
豊橋市	教育委員会文化振興課	〈0532〉47-2017 事務吏員 賛小林久彦 〃 小岩瀬利彰 〃 岩瀬利彰 主事 補 赤木弘之	久彦利彰弘之
豊川市	教育委員会 社会教育課	〈05338〉5-2111 主事 林弘之	弘之
一宮町	教育委員会 社会教育課	〈05339〉3-3111 主事 須川勝以 発掘調査補助員 山本ひろみ	勝以ひろみ
師勝町	教育委員会 社会教育課	〈0568〉23-6111 主事 市橋芳則	芳則
甚目寺町	教育委員会 社会教育課	〈052〉444-1621 事務吏員 内山伸也 〃 磯部幸男 嘱託 磯部幸男 主査 萩野栄	伸也幸男栄
南知多町	教育委員会 社会教育課	〈0569〉65-2880 嘱託 磯部幸男 主査 萩野栄	幸男栄
吉良町	教育委員会 社会教育課	〈0563〉32-1111 主査 萩野栄	栄
稲武町	教育委員会 社会教育課	〈05368〉2-2511 係長 長江洋一 〃 8-4577	洋一
小坂井町	教育委員会 教育課	〈05337〉8-4577 主事 鈴木徹	徹
田原町	教育委員会 文化財課	〈05312〉2-1151 主事 増山楨之	楨之
名古屋	名古屋見晴台考古資料館	〈052〉823-3200 学芸員 野口素子 〃 松村冬樹 〃 川合剛 〃 水野裕之 〃 伊藤正哲 〃 服部宇哲 〃 竹内光 〃 木村厚 〃 伊藤史 〃 尾野善裕	子樹男剛之人也哲一史裕
一宮市	一宮市博物館	〈0586〉46-3215 係長 土本典生 学芸員 田中禎子	典生禎子
瀬戸市	瀬戸市埋蔵文化財センター	〈0561〉21-1951 係長 藤澤良祐 主任 服部郁司 〃 山下峰 調査員補 松澤和人 〃 岡本久 〃 金子健一 〃 青木修	良祐郁司人久一修
尾西市	尾西市歴史民俗資料館	〈0586〉62-9711 学芸員 伊藤和彦	和彦
半田市	半田市立博物館	〈0569〉23-7173 館長 立松宏 学芸員 近藤英正	宏正
常滑市	常滑市民俗資料館	〈05693〉4-5290 学芸員 中野晴久 〃 岡安雅彦 〃 齋藤弘之 〃 天野信治	晴久雅彦弘之信治
安城市	安城市歴史博物館	〈0566〉77-6655 学芸員 岡安雅彦 〃 齋藤弘之 〃 天野信治	雅彦弘之信治
蒲郡市	蒲郡市博物館	〈0533〉68-1881 学芸員主査 小笠原久和 主任 野口哲也	久和哲也
清洲町	愛知県清洲貝殻山貝塚資料館	〈052〉409-1467 主任 野口哲也	哲也
美和町	美和町歴史民俗資料館	〈052〉442-8522 学芸員 鎌倉崇志 〃 近藤博	崇志博
弥富町	弥富町歴史民俗資料館	〈0567〉65-4355 学芸員 伊藤隆彦	隆彦
武豊町	武豊町歴史民俗資料館	〈0569〉73-4100 学芸員補 奥川弘成	弘成
三好町	三好町歴史民俗資料館	〈05613〉4-5000 館長補佐 安田幸市	幸市
足助町	足助資料館	〈0565〉62-0387 館長 鈴木茂夫 派遣主事 鈴木昭彦	茂夫昭彦
設楽町	設楽町奥三河郷土館	〈05366〉2-1440 館長 鈴木富美夫	富美夫

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター 名簿一覧

役 員

理 事 長 高 木 鐘 三
 常務理事 鈴 木 正 明
 理 事
 野 村 光 宏 愛知県教育委員会教育長
 井 関 弘 太 郎 名古屋大学名誉教授
 伊 藤 秋 男 南山大学教授
 大 参 義 一 愛知学院大学教授
 坪 井 清 足 (財)大阪文化財センター理事長
 檜 崎 彰 一 名古屋学院大学教授
 山 本 勝 都市教育長協議会会長
 (半田市教育長)
 佐 々 信 雄 町村教育長協議会会長
 (大口町教育長)
 蛇 川 雄 司 愛知県土木部長
 倉 知 昌 視 愛知県教育委員会社会教育部長
 武 田 晋 愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
 館長(清洲町長)
 亀 井 誠 治 愛知県陶磁資料館館長
 監事
 滝 澤 尋 文
 原 田 宗 雄 愛知県出納事務局次長

専門委員

考古学 檜崎 彰一 名古屋学院大学教授
 文献史学 早川 庄八 名古屋大学教授
 地理学 海津 正倫 名古屋大学助教授
 建築史学 小寺 武久 名古屋大学教授
 動植物・考古学 渡辺 誠 名古屋大学教授

形質人類学 池田 次郎 九州国際大学教授
 保存科学 沢田 正昭 奈良国立文化財研究所
 遺物処理研究室長
 岩石学 諏訪 兼位 日本福祉大学教授
 木材組織学 木方 洋二 名古屋大学教授

職 員

事務局長(兼管理課長) 豊 田 次 男
 管理課
 主 査 谷 隆 盛
 主 事 伊 藤 秀 城 後 藤 捨 成
 伊 藤 博 樹 伊 藤 晴 美
 調査課
 課 長 加 藤 安 信
 課長補佐(兼主査) 大 橋 正 明
 城ヶ谷 和 広
 主 査 野 本 欽 也 太 田 芳 巳
 都 築 暢 也 鷲 見 豊
 調査研究員 遠 藤 才 文 大 竹 正 吾
 小 澤 一 弘 松 原 隆 治
 赤 塚 次 郎 松 田 訓
 石 黒 立 人 宮 腰 健 司
 杉 浦 茂 酒 井 俊 彦
 池 本 正 明 余 合 昭 彦
 服 部 信 博 川 井 啓 介
 小 嶋 廣 也 服 部 俊 之
 鈴 木 正 貴 蟹 江 吉 弘
 樋 上 昇 楯 真 美 子
 鬼 頭 剛

セ ン タ ー 日 誌

役員の異動

理事辞任 3月31日 小金 潔
 “ “ 稲石 新
 “ “ 大溪 紀雄
 “ “ 石井 晃一
 “ “ 樋口 康則
 監事辞任 “ 磯貝 満洲
 “ “ 倉知 昌視

職員の異動

川 島 一 夫 愛知県県民サービスセンターへ
 村 上 寿 章 愛知県教育委員会保健体育課へ

森 勇 一 愛知県立明和高等学校へ
 山 田 基 刈谷市立衣浦小学校へ
 小 塚 俊 夫 七宝町立七宝中学校へ
 岡 本 直 久 (財)瀬戸市埋蔵文化財センターへ
 金 子 健 一 “

埋 蔵 文 化 財 愛 知 No. 29

発 行 平成4年7月
 編 集 (財)愛知県埋蔵文化財センター
 〒498 愛知県海部郡弥富町大字
 前ヶ須新田字野方802番24
 TEL 0567-67-4163
 印 刷 株式会社 クイックス